

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270101581		
法人名	株式会社 やつかの郷		
事業所名	グループホーム やつかの郷 (東ユニット)		
所在地	松江市八束町二子1025番地9		
自己評価作成日	平成31年2月15日	評価結果市町村受理日	平成31年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成31年3月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設前に中海を望み、春には海岸道路に千本桜が咲く恵まれた環境の中、思い思いにゆったりと過ごしていただいています。ふれあいを大切に、一人ひとりが心地良い空間であるように努めています。地域の方の協力を得ながら、施設の畑でできた新鮮な野菜や、地元の朝どれの魚を使った献立を栄養士が考え、ご利用者にも手伝っていただきながら毎食施設で調理しています。食堂兼リビングスペースには食事には美味しそうな食欲をそそる匂いが漂い、生活感を感じていただきながら、ご利用者にとってご自分の家のような雰囲気を作れるように心がけています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

施設周辺は桜並木が見えたり、海が見えたりと自然を肌で感じることができる恵まれた環境にある反面、中心市街地から離れており通勤に不便さがあるためか、職員が集まりにくい現状がある。急にやめる職員が出たため、雇用を呼びかけてはいるが、現時点は不足しており職員全員の負担は増している。職員会議等で業務改善を検討し続けているが難しい現状にある。この地域の中では歴史のある施設として、有料やデイサービスを加えた複数のサービス事業所でもある為、今まで培ったノウハウを基に、より地域との関わりを増やすことで、この状況を1日でも早く抜け出していきたいと思います。整わない状況の中でも、職員間のチームワークは良く、接遇の際の笑顔の対応には家族関係者の評価も高い。厳しい現状にはあるが、サービス開所時に作成した理念に立ち戻り、地域密着型サービス施設としての役割を感じ、対応を検討いただきたい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やユニットに掲示し、理念の意義を会議や施設内研修で議題にあげ意識統一に努めている。外部研修に全員参加し理念の必要性を再認識したことから、全員で思いの統一に向けて実践に繋げていきたい。	新たに新人職員が加わったこともあり、原点に立ちかえることとして、年度当初に計画と一緒に理念の必要性や内容等を説明し、共通意識を持つことに繋げることにした。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の方に畑の手伝い等のボランティアをしていただいたり、地域交流会等の行事を通じ交流している。足湯にも気軽に入っている。地域の文化祭でPRの為にパネル展示も行った。	回数的にはあまり多くはないが、地域から踊り、カラオケ、コーラス等のボランティアがある。畑作業についてはずっと継続して協力を得ている。より地域との交流を広めるためにも、町内のサロン活動への参加の意向を持っている。	地域との行き来や、見学、実習等の受け入れを増やしたり、より交流の機会を持つよう計画していただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の文化祭「健康福祉まつり」の健康・福祉に関する展示と体験で、グループホームの紹介と施設での様子にPRの為にパネル展示も行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族関係者、ボランティア、地区長、駐在の方、地域の薬局の薬剤師等の知見者、行政関係者の参加で2か月に1回開催し、行事や研修等の活動報告や勉強会、今後の予定を伝え意見交換に繋げている。	家族関係者には毎回案内を送り参加を促している。区長、駐在所、薬局等、地区の方々に参加を得たり、包括からも毎回参加がある。研修会、行事等の報告など施設の活動状況を伝えたり、毎回関心のある議題を考え開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議で意見交換を行ったり、包括には施設の空き状況を伝え利用者の紹介をお願いしたり、生活保護担当者には生活の状況を伝えたりして日ごろから協力関係が築けている。	包括からは毎回参加があり意見を得ている。市の生活保護担当は年1回訪問があり、状況報告を行っている。介護保険更新時には認定調査で関わりがあるし、必要時には課に出向くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設で身体拘束廃止に関する指針をもとに身体拘束廃止・虐待防止委員会を中心に、外部研修の参加や施設内研修を行い、拘束しないケアを実践している。出口の施錠はせず所在確認と一緒に歩くことで、対応している。新人職員にも先輩職員が現場で実践しながら教えている。	精神的に不安定だったり、帰宅願望が強く外に出ようとする方が複数あるが、玄関や2つのユニットを行き来する通路を含め、出入り口が多くあるため、日中は施錠せず、一緒に歩き見守るようにしている。センサーマット使用者については、委員会での必要性や使用時間等の検討を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止、虐待防止委員会で外部研修への参加や、2か月に1回の施設内研修等で積極的に学ぶ機会を設けて、互いに注意しあえる関係づくりに努めている。研修担当は毎回変わるため色々な職員が考える機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加したり、知識の習得を努めてながら、必要な時には活用し支援しているよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には本人家族に十分説明し理解いただき、同意を得てから手続きをすすめる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に3回施設の新聞を発行し、年に2回お便りを送り様子を伝えている。何かあれば家族に連絡をとり報告するほか、面会時に声掛けして意見を得るようにしている。会議や行事への参加時にも意見を聞くようにしている。	家族関係者には施設行事の写真を中心に、様子を伝える新聞や便りを送ったり、請求書を送る際にも手紙を添えて意見を得るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と個人的に話をする機会を持つようにしているが、日ごろは会議等の時間でも職員が気軽に意見が言えるような雰囲気づくりを心掛けている。休みの希望はできるだけ聞き、調整し対応するようにしている。	今までは管理者が必要とした時に面接を行ってきたが、今年度は正規職員に於いては、評価事業の項目に添って自己評価を行うことで、個人目標の作成に繋げている。それを基に、年度末には個別に面接を行う事になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自に能力や経験を考慮し業務内容等配慮している。希望休を望む職員には考慮して勤務の調整を行っている。資格手当や超勤手当をつけてモチベーションアップに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正規職員、パートタイマーにこだわらず外部研修や資格取得にむけての研修に積極的に参加している。毎月実施している施設内研修についても、なるべく全員が受けるように2～3回に分けて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加し他事業者との意見交換できる機会を作っている。職員は外部研修や交換実習を通じて意見交換を行っている。他事業所とは新聞を送りあい意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族も交え本人とかかわる時間を増やしてコミュニケーションを取りながら、心配事や不安がなくなるように要望を受け入れ、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話し合いの場を設けてご家族の意見を聴き、要望に応えながら安心してご利用いただけるように努めている。とご利用者の家での様子や、昔の話を聞きながら不安や要望等を話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを受け止めどのようなサービスが必要か見極め、当事業所に限らず他のサービスも紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割を持っていただき、職員も教わりながら互いに信頼関係を築いている。手伝いをお願いしたり、工作や飾りつけで案を出してもらい、感謝を伝えている。同じ食事を食べて生活を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の近況報告や電話連絡、行事にお誘いし施設での様子も見いただいている。精神的に不安定になりやすい方には定期的に面会に来ていただくなど、家族と相談しながら、ともに本人を支える支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族写真やなじみのものを居室に置いたり、電話や手紙のやりとりや、近所の散髪屋さんでお茶しながらくつろぐことも続けている。以前の関係を続けることに加えてここで新たな仲間づくりも支援している。	年賀状と暑中見舞いは担当職員と一緒に書いて家族に送ることを以前から続けている。家への思い入れの強い方は、家族に外出をお願いしたり、受診の帰りに近くをドライブするなど関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し会話の橋渡したり、関わりを大切に声かけを行っている。食堂の席替えも様子を見ながら行っている。ユニット間での行き来もしており、孤立することのないように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会に訪問したり、家族と連絡を取り合ったりしており、必要な場合は相談に応じて助言等行い支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人の訴えのあったことは記録するようにしている。主に居室担当が関わり意見を聞くようにしている。モニタリングも担当が行うことで評価しながら思いを把握するように努めている。	日頃の関わりの中で聞かれた言葉や思いをできるだけ記録に残すようにし、職員間でも共有するようにしている。全体的に介護度が軽くなっていることもあり、今年度からは毎月1回3B体操の指導を受けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人等とのコミュニケーションを大切に話をうかがい、生活歴やこれまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりとのかかわりの大切にして様子を知り、職員同士声を掛け合い、申し送りノート等活用し、職員間で情報共有し連携を取りながら、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回担当がモニタリングして担当者会議を行っている。家族参加が難しい場合は事前に意見を聞き、主治医には受診する際に意見を聞いている。看取りなど医療の関わりが多い場合は病院で実施するケースもある。	毎月1回の職員会議を朝9時半から行う事で、できるだけ多くの職員が参加するようにして、介護計画の話し合いを行っている。家族が遠方の方もあり、担当者会議への出席は多くはないが、電話等で意見を得て開催している。	本人や家族関係者等できるだけ多くの参加を得て担当者会議が開催できるよう検討いただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯、夜間帯での一覧の申し送りノート活用しながら、ケアの実践や気づきを記入して職員間情報共有しケアに活かせるよう、詳細を生活記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が受診に付き添えない場合に受診介助を行ったり、地域の理髪店や美容院、買い物や外食等の外出支援を希望に応じて柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夕涼み会でボランティアの方に店の手伝いをしていただいたり、行事では餅つきや地元のお菓子づくり講師をしていただくなど一緒に楽しむ機会があった。避難訓練には近隣の工場からも参加してもらうなど協力体制を整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や緊急時にも対応可能な協力医を確保している。かかりつけ医を月1回のペースで職員が付き添い受診し、日ごろの様子を詳しく伝えることで指示を得るようにしている。	入所時に以前からのかかりつけ医を継続することも、この施設の協力医に変更することもできる事を伝えている。重度で受診時の移動が困難な場合を除いては、職員が付き添い受診しており、休日夜間緊急時の対応も可能で安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師には出勤時以外も緊急時は24時間対応で随時電話で相談するほか、協力医の看護師等に指示を仰ぎ連携を取りながら受診、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行い、相談員と連携をとりながら、訪問した際には医師や看護師等からの状況把握に努めている。退院時のカンファレンスに出向いたり、サマリーや電話等で情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医の支援体制はあるが、医療行為があまり多くなくここでの対応が可能な場合には看取りを実施している。こちらで対応可能な形を十分に説明したうえでご家族に話し合いを重ねている。	看取りに向けては、重度化への対応等研修を計画し実施している。経験不足で精神面や技術面での負担が大きいこともあり、職員全員が思いを共有できるようにし、今年度も1名の看取りを行っている。段階を追っての家族対応の難しさもあり、幅広い研修の必要性を感じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防署の協力を得て、救命講習を受講している。施設内研修を行うほか、ステーションにフローチャートや対応マニュアル等を張り周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループ全体で避難訓練を実施。米の備蓄や毛布やカセットコンロ等の準備あり。地域へは避難所として提供することも検討。市の防災安全課から参加してもらい、防災委員会で非常災害対策計画を策定した。	同敷地内にはグループ全体の建物が集中していることもあり、日中夜間共に有事の際のお互いの協力体制は整っている。防災計画で役割り分担もできており、訓練実施後には設備の点検も行うようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地元からの入所者も多いため、守秘義務について会議等で度々取り上げて注意を促している。排泄や入浴などの介護技術の中やその他の研修の中でも基本的なこととして繰り返し取り上げている。	排泄介助の際のドアの開け閉めや声がけ、名前の呼び方など気になる場合には注意するようにしている。介護技術や接遇研修、虐待防止研修の中でも再確認する形で取り上げ、共有するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の訴えや意向を会話の中から探り、自己決定できるような声掛けや支援を行っている。いくつか選択肢を例にあげて聞くように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重した声掛けを行い、本人の意向に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の思いを大切に衣類を選んでもらったり、買い物支援や近所の理髪店や美容院への外出支援、髭剃り、爪切り、化粧等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の方と作っている野菜や、地元の魚を利用し3食作っている。大型冷蔵庫があり保存食作りもしている。利用者下準備や盛り付けを一緒に行い、食べることに意欲に繋がるようにかかわっている。	施設中央の調理場所で調理担当職員が主に行っている。地産地消で新鮮な野菜や魚を使ったり、切り干し大根等も作っている。おかずの盛り付けやお盆拭きなどできる作業は職員と一緒にいるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスのとれた食事を提供。食事形態も変え、無理なく全量摂取できるようにしている。食事量、水分量をチェック表に記入し、水分も好みの物を時間を決めず、その人に合わせてこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助により口腔ケアを行い、チェック表に記入している。一人ひとりに合わせた方法で口腔ケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者から訴えのある場合や排泄パターンを把握し声掛けするようにしてできるだけトイレで排泄パターンを把握し声掛けするようにしてできるだけトイレで排泄するように支援している。	自立の方が数名、オムツ使用者は定期的の交換で対応している。個々の排泄パターンに添って誘導して、不快にならないよう配慮している。オムツメーカーから来てもらい、より適した物や使い方の研修を受け役立てている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時には牛乳等の水分やヨーグルト摂取や、散歩等の運動を促し、医師に相談し処方された便秘薬で適宜コントロールしておられる方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けで意向を聞きながら、週2~3回の入浴回数を確保している。それ以外にも汚染時や希望に応じて、都度対応している。家庭浴槽のため重度な方はシャワーチェアでシャワー浴対応となるために改造の必要性も感じている。	家庭用浴槽でありあまり広くないため、重度な方の場合は浴槽への出入りが難しい場合もあるが、2人介助で移動し、シャワーチェア利用するようにしている。職員が多い時間帯にできるだけ入浴するようにして、回数を確保できるよう調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整や照明もその人に応じて調整しながら良眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師がセットしているが、職員も一人ひとり既往歴の把握に努め、内服管理表をユニットで管理し、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時はチェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で役割を持っていただき、職員も教わりながら、互いに信頼関係を築いている。役割を持ち、洗濯物干し、たたみ、食事の準備や後片付けを手伝ってもらえるような環境づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は年間計画で作成しており、職員を確保して実施している。日ごろは受診時に外出を兼ねて買い物に寄ったり、ドライブに出掛けたりしている。施設前には景色を見ながらくつろげる場所があるため、気候が良くなると度々利用して楽しんでいる。	年に1回は居室担当と希望外出の機会を持つようにしている。普段は施設周りが平坦で景色もいい為、天候に配慮してできるだけ散歩するようにしている。受診の帰りには車で周りドライブを楽しむ機会としている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお小遣い程度のお金を所持しておられる方もいる。希望時には買物支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話をかけたり、年賀状や手紙のやりとりも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールがあり共同の行事の場として利用。ソファに座り、大型のテレビを楽しめる。和風の小庭を囲むように廊下があり、外の景色も良く見え自然の中にいることを実感できる。共用の空間に季節を感じる飾りつけや植物、めだかの水槽等置く工夫をしている。	回廊式の建物になっているため、デイルームからは中庭の草木をいつも見ることができ、屋間は電気も必要ないくらい明るい。道路からも入っているため、車等の騒音も無く静か。施設周辺は桜並木があり、海も見え景色が大変良く、季節をいつも感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファやテーブル、テレビが設置され利用者の方が自由に使用できるようにして、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの持ち物の持ち込みを積極的にすすめており、家具等を動きやすいように配置しくつろげるように配慮している。トイレの有無で居室が選べるようになっている。	部屋はフロアになっており畳を敷くことも可能で、利用者の希望に合わせた対応をとるようにしている。テレビやタンス、小物入れ、座椅子等家で使用していた物を入れたり、家族写真や作品を飾ったり、好みを聞きながら部屋づくりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、安全に移動できるように手すりも設置されている。必要に応じてコールボタンを押されたり、マットやセンサーコールを家族に十分説明し同意のもと設置して見守りを行っている。		